

課題名：患者一人ひとりに最適な外来がん薬物療法の実現：
PHRを用いた個別化モニタリング・フォローアップサービスの研究開発

代表機関／代表者：株式会社カケハシ／竹部亨

分担機関：国際医療福祉大学、自治医科大学、東北大学、日本医科大学

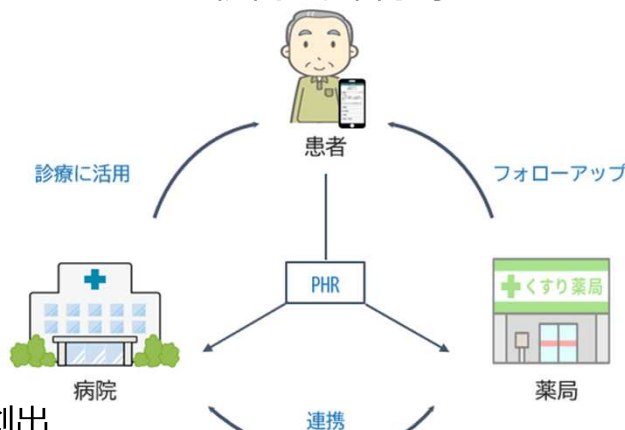
研究期間：令和7年9月～令和10年3月

研究開発目的

- PHR（Personal Health Record）による患者さんのモニタリングを行うことで、一人ひとりに個別化されたフォローアップを実現する。
- 医療不介入の空白期間である通院間の症状変化を早期に検知、ケアすることで、患者さんの健康関連QoL（HRQoL）改善と医療者のフォローアップ業務の効率化を行う。
- 将来的に様々な疾患でモニタリング・フォローアップに資するPHRサービスを提供することで、予後の悪化や救急搬送/予定外入院などを予防し、医療費の削減に貢献する。

取り組み

- 外来がん薬物療法をうける患者さんに対して、通院間の有害事象モニタリングを実施
- 有害事象の発生状況を薬局、病院にタイムリーに共有することで早期のフォローアップ、ケアを行う
- 患者さんのHRQoLの変化やフォローアップ業務の効率化、経済的な効果を評価



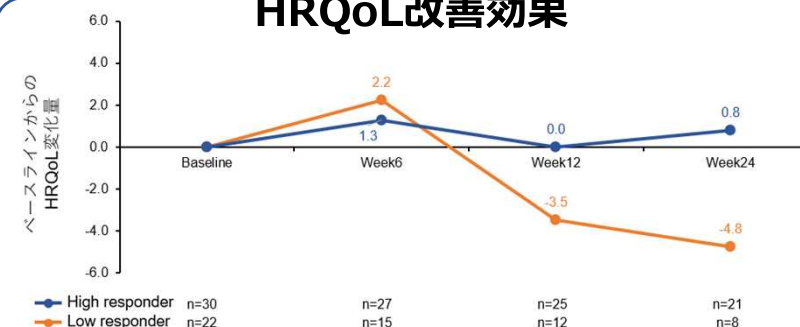
期待される成果

- 治療アウトカム改善のエビデンス創出
- 病院・薬局で連携可能なプラットフォームの構築

有害事象のモニタリング



HRQoL改善効果



PHRのモニタリングと患者フォローアップがQoLを改善
(高い回答率でモニタリング参加した患者でQoLが高い傾向)
*経済産業省「令和6年度医療機関におけるPHR利活用推進等に向けた実証調査事業」で得た探索的な研究成果